



「心のスイッチ」を入れるのは自分

「心のスイッチ」

東井 義雄

人間の目は ふしぎな目
見ようという心がなかったら 見ているも見えない

人間の耳は ふしぎな耳
聞こうという心がなかったら 聞いていても聞こえない

頭もそうだ
はじめからよい頭 わるい頭の区別があるのではないようだ
「よしやるぞ!」と
心のスイッチがはいると
頭もすばらしいはたらきを しはじめる

心のスイッチが 人間を
つまらなくもするし すばらしくもしていく



電灯のスイッチが
家の中を明るくもし 暗くもするように

始業式で紹介させていただいた東井義雄先生の「心のスイッチ」という詩の一部です。
読んでみて、どんな感想をもったでしょうか。

誰もが大きな可能性を持っている。その可能性を開花させるスイッチを入れるのは誰でしょうか。誰かが助けてくれることもあるかもしれませんが。また、何かの偶然でスイッチが入ることもあるかもしれませんが。でも、結局スイッチを入れるのは自分以外にはいないということなのかなと思います。

皆さんには、自分の力を眠らせたままにせず、「心のスイッチ」を入れて、自分の花を咲かせてほしいと思います。